NEW GEAR [ギアストーリー] STORY

オノフ
フォージドアイアンKURO

飛距離と高さで、やさしく正確に狙える
プロが認めた“中空フォージド”が、さらに進化!

ツアーからのフィードバックを生かし、より性能の高いクラブ作りを目指しているオノフ。飛距離、正確性はもとより、イメージ通りのショットが打ちたいというプロの要求に応え、選手をサポートしてきた。そして今季、開幕戦から浅地洋佑が使用しているのが今週発売になる「オノフ フォージドアイアンKURO」。中空鍛造アイアンの3代目だ。

PHOTO／Tomoya Nomura、Tadashi Anezaki

21年目を迎えた「オノフ」

「上質な大人のゴルフ」をコンセプトに、2002年に誕生した新ブランド「オノフ」。仕事と遊びの時間など、オン（ON）とオフ（OFF）の切り替えができ、「プレミアムライフスタイル」を求めるゴルファーをターゲットとする。2009年には契約したばかりの片山晋呉がマスターズで当時の日本人史上最高成績となる4位に入る活躍を見せ注目を集めた。

2019年に軟鉄鍛造中空構造を採用

オノフが「AKA」と「KURO」に分かれたのは2015年。「AKA」がやさしさを求めるアマチュアをターゲットにしているのに対し、「KURO」はツアープロの要望も満たしながら上級者のニーズに応えてきた。

「フォージドアイアン」は2011年からラインナップされ、一貫して軟鉄鍛造の一体構造を採用。「KURO」になってもそれは続いていたが、2019年に初めて中空構造を取り入れる。この中空フォージドアイアンを駆使して、5月のダイヤモンドカップでツアー初勝利を挙げたのが浅地洋佑だった。

「僕がアイアンに求めることは、思った距離をその通りしっかり飛んでくれること。その点で、軟鉄鍛造の前モデルと変わらないし、中空になって距離が伸びて高さも出る分、楽になりました」と当時の浅地。7月の全英オープンにも初出場し、見事、予選を突破。

「（この年の全英の舞台）ロイヤルポートラッシュの地面はコンクリートのように硬いんです。だからソールが弾かれてフェースの下めに当たりやすいんですけど、このアイアンは下めに強い。芯と変わらず高さが出るから、厳しいグリーンも自信を持って攻められました」と、中空構造ならではの利点も口にしていた。そして9月のANAオープンでは早くもツアー2勝目を手にする。

オノフ
フォージドアイアンKURO

◎ヘッド素材／特殊バネ鋼SAE8655圧延材フェース、軟鉄（S20C）鍛造ボディ、ウェイトスクリュー（4g=ステンレス）◎ロフト角／22度（#4）、25度（#5）、28度（#6）、32度（#7）、36度（#8）、40度（#9）、44度（PW）◎シャフト／CBT:624I（S）、N.S.PRO MODUS³ TOUR105（S）、N.S.PRO MODUS³ TOUR115（S）◎5本セット（#6〜PW）12万1000円〜、単品（#4･5）2万4200円〜

振りやすさを最適化できるヘッドウェイト調整機能

ヘッドのウェイトスクリュー（別売）を交換することで、それぞれのゴルファーに最適なヘッド重量、バランスの調整が可能。標準仕様では4gのウェイトが装着されているがウェイトを±2g変更することで、バランスが±1変化する

安定したスピン性能をもたらす新フェースレーザーミーリング

スピン性能を安定させる高精度なレーザーミーリングをフェース面に施し、ウェットなライからでも安定したスピン量を確保。このミーリングのなかには“隠れ「ONOFF」”がデザインされ、フェース中央部の「O」がスイートスポット（SS）位置を示している

初代中空「フォージドアイアンKURO」を使用し初優勝を飾った浅地洋佑。このアイアンで通算3勝を挙げたが、今季は開幕前から3代目を愛用中

オノフ独自の軟鉄鍛造中空ボディと特殊バネ鋼圧延材フェースによる高弾道と飛距離はそのままに、さらなる抜けの良さと安定したボールコンタクトを実現するソール形状を採用した

浅地が使えるソール形状が3代目の命題だった

だが2年後、モデルチェンジした「フォージドアイアンKURO」を浅地が実戦で使うことはなかった。中空モデルの2代目は高初速とフェース下部の反発力をアップさせるため、フェースがソール側にまで回り込む「Lカップフェース」を採用。この構造だとソールの形状に自由度が得られず、浅地が気に入っていた「三日月ソール」ではなく、ラウンドソールとなっていたからだ。浅地はこの年11月のマイナビABCチャンピオンシップでツアー3勝目を挙げるが、手にしていたのは前モデルの初代中空「フォージドアイアンKURO」だった。

この苦い経験を踏まえ、オノフの開発陣は3代目となる中空鍛造アイアンの開発に浅地の「一打へのこだわり」を積極的に取り入れる。初代から続く軟鉄鍛造中空ヘッドの利点であるシャープでスッキリとした形状、飛距離、球の上がりやすさはそのままに、バックフェース中央部の肉厚を上下に配分し、トップブレードのバック側にトレンチ（溝）を配置。上下の慣性モーメントがアップし、剛性も高まり、上下ミスへの寛容度の高いヘッドへと進化。前モデルではフェース下部のみだった特殊振動吸収樹脂をフェース裏全体に注入することで軟らかさのなかにも弾き感のある打感を実現。そして何よりも、初代で浅地が気に入っていたソールのリーディングエッジ側を削った「三日月ソール」に加え、ソールのトウ・ヒール方向を大胆に落とし、どんなライからでも安定した抜けとボールコンタクトを実現する「マルチロケーションソール」を採用。こうして出来上がった3代目中空鍛造「フォージドアイアンKURO」を浅地は今年の国内ツアーが開幕する前のアジアンツアーから使用している。

「構えた感じ、ソールの感じが初代に似ているというか、ほぼ同じ。細かい所もリファインされて初代からの正当な進化を感じました。抜けはむしろ初代よりよくなったと思います」と3代目にすんなり切り替えられた理由を浅地は語る。ツアー3勝を挙げた初代、2代目、そしてさらに進化した3代目。浅地をはじめとするプロはもとより、道具にこだわる上級者にとって強い武器になることだろう。

ロフト別に最適な2種類のソール形状をラインアップ。48度・50度・52度はフルショットをはじめスクエアなインパクトに対応したオールラウンドなソール形状。56度・58度・60度は、コントロールショットなどフェースの開きやすさに対応したマルチロケーションソール形状

オノフ
フォージドウェッジ

◎ヘッド素材／軟鉄（S20C）鍛造◎ロフト角／48度、50度、52度、56度、58度、60度◎シャフト／N.S.PRO MODUS³ TOUR115（S）◎2万4200円